

第1回柿木・青柳エリアデザイン会議 会議要旨

概要

日時

令和6年（2024年）12月3日（火）
午後7時から午後9時

場所

総合福祉センターであいの森 2階 教養文化室

出席者

- (1) 委員 12名 ※市民・専門家・行政で構成
- (2) オブザーバー 3名 ※国・県の行政機関
- (3) 草加市長 山川百合子
- (4) 事務局 ※草加市 総合政策部
- (5) オーディエンス（傍聴者） 17名



※当日の様子

次第

① 開会

② 自己紹介

⇒ 委員及びオブザーバーの方の自己紹介

③ 委員長の選任

⇒ 委員長に矢部智仁委員を、副委員長に坂田幸夫委員を選任

④ 市長あいさつ

⑤ 報告事項

- (1) (仮称) 柿木・青柳エリアグランドデザイン作成の背景 [資料①]
 - (2) 柿木・青柳エリアの現況について [資料②]
 - (3) 柿木・青柳エリアデザイン会議の位置付け、今後の進め方 [資料③]
- ⇒ 資料①～③に基づき事務局から報告

⑥ 議事

今後の会議における内容（基調講演テーマ）について [資料④]

⇒ 次頁のとおり

⑦ 閉会

⇒ 次回テーマは委員長と相談の上、決定することとし
1月中旬から下旬を目安に次回会議を開催



第1回柿木・青柳エリアデザイン会議 会議要旨

議事の内容（一部抜粋）

- 少しでも住宅開発ができるよう緩和方策がないのか教えてほしい。
- 柿木町は市街化調整区域ということで、住宅が建たないという状況であることから、人口が増えず、高齢化が進んでいる。一方で、同じ市街化調整区域なのに何故越谷市では住宅開発ができるのか。
- 田んぼをわざわざ潰してまで建物を作る必要はないのでは。
- 田畑をつぶすのではなく、空地（現状、住宅ではなく資材置き場となっているような場所）を変えていけたら嬉しい。
- 田畑を潰すのはあまりやらない方が適切かと思う。
- 空き家の活かし方についてはどうなのか。
- 海外のようにまちなかに自然が散りばめられているような環境づくりは良いと思う。
- 皆さんから緑や環境を維持してほしいという要望を沢山いただくが、緑の維持や保全是かなりの資金と労力が必要。田畑を営む農業者の視点からすると後継者もいない、それでも市からは田んぼや畑しか認めてもらえず、皆さんやむを得ず耕作放棄をしていくのが現状。



- 造園業も高齢化が進んでおり、緑の保全も大変。神社・仏閣も守っていくために、お金や身を削って必死にやっていることを若い世代には理解してほしい。
- 民間事業者ヒアリング結果で、「コト消費」が満たされるエリアという意見について納得した。自分自身も小中学校の頃は遊ぶ場所が少なかったと感じた。
- そうか公園にフィールドアスレチックを設置するといった、コト消費の場があるのは良いと思う。



- そうか公園のスポーツ施設について、利用者を限定するような施設ではなく、年齢や競技に縛られない施設の設置が良いと思う。
- 設置する場所も重要であり、今まで環境や自然、歴史も今まで守ってきた、築いてきた方もいらっしゃると思うため、そういった方に不安が出ないように、設置する場所を意識して開発することが第一と思う。

- スポーツ施設などを建てるにしても、使う用途を単純化させずに、24時間稼働は過剰な言い方かもしれないが、限られた土地や建物の中で複数のことができる、効率化することができればと思う。



第1回柿木・青柳エリアデザイン会議 会議要旨

議事の内容（一部抜粋）

- バスを動かすのは賛成だが、道路が狭く、渋滞発生が懸念されるため、動かす上で市民から不満が出ない動かし方をしなければいけないと思う。



- 都市計画とか建築制限とか、むやみに許可してしまうと乱雑になってしまうため、しっかりとしたりやり方を考えれば出来ると思う。



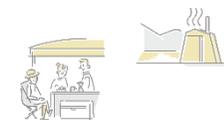
- コミュニティの再生は是非取り組まないといけないと思う。
- 若い方は一度外に出てしまうかもしれないが、また戻ってきたいと思えるために、この地域がどうなってほしいかが一番大事であり、それが地域の魅力なのか何なのかを知りたい。

- どうやったら田畑に様々な方が関わってくれるのか、農業として成立するのか、みどりも上手く地域資源となるか考えなければいけないと思う。

- そうか公園は重要な資源であり、もっと価値が発揮されると、近くに住む方に対して様々なメリットがあると思う。新しい方が住むような上手い施策が取れば、そうか公園が魅力となって需要と供給が合ってくるのではないかと。

- 川がどんな資源となるか、次回以降、皆さんにお聞きしたい。

- 次の時代につながるような「コト消費」がなんなのかを、知恵を出して探っていけたらと思う。



- 豊かな自然、田畑を残すことはおっしゃるとおりだと思う。

- 都市緑地法が改正され、まちなかの緑地や自然を守っていこうと、グリーンインフラ※1は国も力を入れている。



- 地域の企業、行政、NPO法人、地域住民のみんなでグリーンインフラを活かしていくような先進自治体の取組は参考になると思う。また、公民連携による既存のアセットの有効活用も非常に参考になると思う。

- 高齢者と若い人とのインクルーシブ※2な提言をしていくこともキーワードかと思う。



※1 グリーンインフラ：自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。昨今、海外を中心に取組が進められ、日本でもその概念が導入されつつあるほか、国際的にも関係する様々な議論が見られる。（国土交通省HPより参照）

※2 インクルーシブ：包摂（ほうせつ）的な、包括的な、すべてを包み込むを意味する。